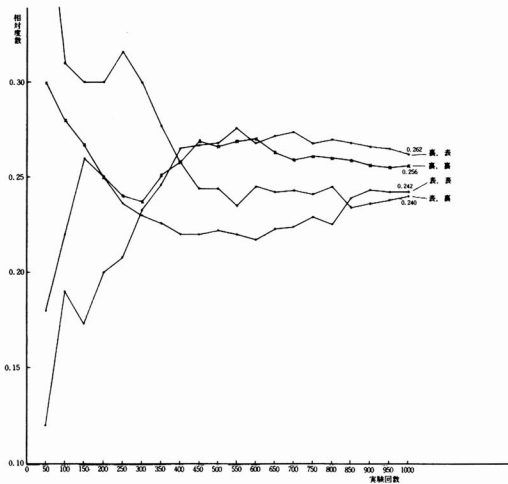


	表表	表裏	裏表	裏裏
600	130 0.217	147 0.245	161 0.268	162 0.270
650	145 0.223	157 0.242	177 0.272	171 0.263
700	157 0.224	170 0.243	192 0.274	181 0.259
750	172 0.229	181 0.241	201 0.268	196 0.261
800	180 0.225	196 0.245	216 0.270	208 0.260
850	203 0.239	199 0.234	228 0.268	220 0.259
900	219 0.243	212 0.236	239 0.266	230 0.256
950	230 0.242	226 0.238	252 0.265	242 0.255
1000	242 0.242	240 0.240	262 0.262	256 0.256

(注) 表表, 表裏等は100円硬貨, 10円硬貨の順。
上段……出た回数 下段……相対度数

また, グラフで表すと次のようである。

図1 2枚の硬貨投げ(100円と10円)の実験



2枚の硬貨の表, 裏がそれぞれ同様に確からしく出れば, 理論的には4通りのどれがおこるのも同様に確からしいので, どの確率も $\frac{1}{4}$ となるはずである

が, この実験では0.240~0.262の値が出た。これは, 2枚の硬貨そのものつくりの問題があるのか, または, 実験の際の条件を整えることに問題があったのか, あるいは, 実験回数をもっと多くすればいずれも $\frac{1}{4}$ に近づいたのかはわからないが, とにかく, それぞれの確率が $\frac{1}{4}$ に近づくことを体験させることができる。ただし, $\frac{1}{4}$ という値は, 理想化された状態での確率であることを頭において指導にあたらなければならないと考える。

集計用紙 2枚の硬貨投げの実験 No.1

目のかた 出た 50回 ごとの 回数	オオ	オウ	ウオ	ウウ	計
1	正正 9	正正正正 20	正 6	正正正 15	50
2	正正下 13	正正 11	正正下 13	正正下 13	50
3	正正正下 17	正正正 14	正下 7	正正下 12	50
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
20	正正下 12	正正正 14	正正 10	正正下 14	50

集計用紙 (2枚の硬貨投げ オオ) No.2

50回ご との回数 累計	1	2	3	4	⋮	20
50	9 (0.180)	13	17	11	⋮	12
100	22(0.220)					
150	39(0.260)					
200	50(0.250)					
⋮						
1000	242(0.242)					

同様にNo.2の様式で, オウ, ウオ, ウウを行う。